

1. 医学部教育

平成4年に六年一貫教育カリキュラムを導入して8年となり、このカリキュラムによる教育を受けた学生の卒業は3回目となった。これらの卒業生の評価も踏まえ、医学教育の内容やその方式の全国的な変動の流れに対応することが大きな課題となり、そのためのカリキュラムの見直しと検討を始めた。

A 全学教育

平成9年の教養部の廃止以後、一般教養教育は全学部が協力して担当する委員会方式で運営されている。医学部は個別科目の人間科学分野の責任部局として運営を担っている。また、医学部からは、述べ132名の教官が人間科学分野を中心に6分野、27科目の授業を担当した(表1)。旧教養部教官の他学部への分属、あるいは担当教官の退任後の非補充などにより、総合大学としての教養教育の維持に支障を来している。その対策として平成14年度からの全学教育に大幅な変更を企画しており、その検討が11年度より始められた。

B 専門教育

医学部の専門教育は基本的には平成10年度と同じ時間割りで実施された(表2)。11年度入学の学生から、「医と社会」の教科を充実させ、1年から6年まで通して実施される教科目とし、この中で、「将来、医療に携わる上で大切なことを学び、また、学内外においての様々な活動を通じて社会に広く求められる人間性を養うこと」を目標と掲げた。リサーチセミナーにおいて海外の大学との学術協定に基づく、学生の海外での実習も2年目となり、軌道に乗ってきた。今年度はビュルツブルク大学に2名、ライデン大学に2名、ミンスク大学に3名の計7名が海外での実習を体験した(表3)。学外の医療機関等での医学部学生の臨床教育の充実も図られ、協定病院や臨床教授・臨床助教授も増加した(表4)。平成11年度の6年次学生は105名であり、うち正規卒業生104名であり、卒業延期後卒業生は1名であった。新卒者の医師国家試験合格率は81.6%であった。

(平成11年度 医学部長 齋藤 寛、教務委員長 田口 尚、学生委員長 澄川耕二、
入試委員長 中園一郎)

(文責 田口 尚)

表1 平成11年度 医学部教官の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

分野	授業科目	担当教官
人間科学分野	人間学A	古賀成彦、野俣浩一郎、福田久信、吉村秀一郎、酒井英樹、後藤英夫
	生態機能学A	岩堀修明、松田好弘、中根允文、澄川耕二、柴田尚武、安永暁生、上之郷眞木雄、徳永能治、北岡 隆、中村龍文、調 漸、城丸みさと、中尾善亮、斉藤了一、辻田高宏
	健康科学A	田口 尚、関根一郎、寺本 司、下川 功、下田照文、原田孝司、中田恵輔、塚崎直子
	ハンディキャップA	中根允文、雨宮次生、藤井 徹、平野明喜、進藤裕幸、城丸みさと、北岡 隆、三根禎行、寺本 司
	人間学B-1	松坂哲應、福田雅文、松本 正
	人間学B-2	中園一郎、下川 功、折原義行
	生体機能学B-1	矢野捷介、相川忠臣、松本逸郎、早野元信、瀬戸信二、門田淳一、下田照文、山田恭暉、栗山一孝
	生体機能学B-2	牧山和也、横山直方
	生体防御B	由井克之、宿輪哲生、田中洋一、渡辺雅久、河部庸次郎、片山一朗、前崎繁文、右田清志、清水和宏
	生体と薬B	谷山紘太郎、丹羽正美、長谷場純敬、市川正孝、柴田 治、佐々木均、朝野和典
健康科学B	兼松隆之、上平 憲、綾部公懿、藤岡ひかる、中越 亨、古井純一郎、安武 亨、東 尚、高木正剛、林 邦昭、越智 誠、岡 忠之	
人類生態学B	竹本泰一郎	
基礎自然科学分野	化学実験B	毎田徹夫、谷山紘太郎、中園一郎、上平 憲、小路武彦、中山 亨、由井克之、朝長万左男
	細胞生物学B	山下俊一、難波裕幸、小路武彦、松山俊文
	動物生理学B	相川忠臣、松田好弘、松本逸郎
	統計学A	近藤久義
	統計学B	柴田義貞、三根真理子、近藤久義、本田純久
動物学B	森内良三、永山雄二、山本一男	

分野	授業科目	担当教官
応用自然科学分野	応用生物科学B	大沢一貴
総合科目	現代の生命像1	齋藤 寛、岩堀修明、由井克之
	現代の生命像2	齊藤 泰、齋藤 寛、新川詔夫、陣野吉廣
	長崎の自然・社会・文化	三根真理子
	火山と災害	竹本泰一郎
	放射能の光と影	林 邦昭
	情報と歴史	相川忠臣
一般情報処理科目	情報処理演習	三根真理子、本田純久
健康コンディショニング科目	コンディショニング	上平 憲、山口義彦、赤澤昭一、岡三喜男、草場英介、諸岡浩明、藤江 透、榎田徹次、芦澤直人、植山千秋、中田恵輔

B. 全学教育関連委員会の医学部委員

委員会	委員
全学教育実施委員会	田口 尚 (教務委員長) 上平 憲 片峰 茂 (人間科学分野専門委員会委員長)
分野・科目別専門委員会	
・社会科学分野文化人類学	長島聖司
・人間科学分野	小路武彦、綾部公懿、片峰 茂
・基礎自然科学分野	柴田義貞、山下俊一
・応用自然科学分野	由井克之
・総合科目	岩堀修明
・一般情報処理科目	柴田義貞
・外国語関連科目	小林俊光
・健康コンディショニング科目	進藤裕幸
・留学生用科目	片山一朗

表2 平成11年度 1～5年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者
1年次	医と社会(医学入門)	澄川 耕二
	人間生物学	小路 武彦
	人体構造系Ⅰ	長島 聖司
2年次	人体構造系Ⅱ	長島 聖司
	神経・感覚器系	岩堀 修明
	発生・組織系	小路 武彦
	動物性機能系	松田 好弘
	内臓機能・体液系	相川 忠臣
	生体分子系	毎田 徹夫
	環境因子系Ⅰ	奥村 寛
3年次	病理総論系	田口 尚
	感染系	片峰 茂
	腫瘍系	松山 俊文
	免疫系	由井 克之
	分子病態総論	近藤 宇史
	環境因子系Ⅱ	齋藤 寛
	薬理学Ⅰ	谷山 紘太郎
	循環器系	矢野 捷介
	呼吸器系	河野 茂
	消化器系	関根 一郎
	血液・リンパ系	朝長 万左男
	中毒・物理的要因系	竹本 泰一郎
薬理学Ⅱ	谷山 紘太郎	
4年次	脳・神経系	中村 龍文
	腎・泌尿器系	田口 尚
	内分泌・代謝・栄養系	赤澤 昭一
	生殖系	石丸 忠之
	運動系	進藤 裕幸
	小児系	森内 浩幸
	診断学	河野 茂
	外科治療学	兼松 隆之

学年	授業科目	責任者
4年次	感覚系(眼科学)	雨宮 次生
	感覚系(耳鼻咽喉科学)	小林 俊光
	皮膚・結合組織系	片山 一朗
	精神系	辻村 徹
	社会医学Ⅰ	齋藤 寛、竹本泰一郎
	内科総括講義	江口 勝美
	外科総括講義	兼松 隆之
	臨床検査医学総括講義	上平 憲
	リサーチセミナー	松山 俊文

学年	授業科目	責任者
5年次	法医学	中園 一郎
	社会医学Ⅱ	竹本泰一郎、齋藤 寛
	内科総括講義	江口 勝美
	外科総括講義	兼松 隆之
	小児科総括講義	森内 浩幸
	整形外科総括講義	進藤 裕幸
	皮膚科総括講義	片山 一朗
	眼科総括講義	雨宮 次生
	泌尿器科総括講義	金武 洋
	耳鼻咽喉科総括講義	小林 俊光
	放射線医学総括講義	林 邦昭
	産婦人科総括講義	石丸 忠之
	麻酔科総括講義	澄川 耕二
	脳神経外科総括講義	柴田 尚武
	形成外科総括講義	藤井 徹
	心臓血管外科総括講義	江石 清行
	総合病理学	田口 尚
	医と社会(医療科学)	中根 允文
精神神経科総括講義	中根 允文	
臨床検査医学総括講義	上平 憲	

表3 平成11年度 4年次後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	岩堀修明	脊椎動物の脳の左右非対称	1
解剖学第二	長島聖司 岡本圭史 分部哲秋 佐伯和信	局所解剖	2
解剖学第三	小路武彦	マウス胎仔に於けるエストロゲン受容体ER α 及びER β の発現分布	1
	和泉伸一	マウス胎仔に於けるACTH受容体の発現分布	1
	進正志	マウス胎仔に於けるCREB発現分布	1
	菱川善隆	マウス胎仔に於けるアポトーシス細胞の発現分布	1
生理学第一	相川忠臣	電解質代謝と肝臓の化学受容器	1
	松本逸郎	グルコースによる副腎髄質ホルモン分泌に及ぼす効果	1
		摂食促進物質によるストレス性食欲不振の改善効果	3
生理学第二	藤村幸一	大脳皮質損傷によるラットの四肢運動野の機能的再編成	1
生化学	中山亨	ミオシン調節軽鎖の祖先型配列の推定	1
薬理学(第一)	丹羽正美	生理活性物質受容体の画像解析	1
	永山雄二	甲状腺癌の遺伝子治療	1
	Abraham Csongor	脳血液関門の薬理学	1
薬理学(第二)	谷山紘太郎	受容体及びイオンチャンネルについて	3
	貝原宗重	—クローニングとその発現—	
	山下康子	中枢および末梢組織における受容体の分布と機能	3
病理学第一	下川功	ラット下垂体の免疫組織化学	3
	樋上賀一	肝細胞における Forkhead Transcription factor の発現とその役割	2
病理学第二	田口尚	腎疾患の分子病理学	2
細菌学	片峰茂	ブタ内在性レトロウイルスの生物学	2
	森内良三	HTLV-I発癌の分子生物学	1
	坂口末廣	プリオンの生物学	1
衛生学	有澤孝吉	がんの症例対照研究のための質問紙の妥当性の検討	2
	高橋達也	長崎県における胆管癌発生率の地域差に関する研究	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
公衆衛生学	永田耕司	保健、医療、福祉現場でのコミュニケーション	5
	青柳 潔	地域高齢者の転倒	3
医動物学	由井克之	マラリアワクチン開発の基礎研究	1
		T細胞活性化の分子機構	1
	鵜殿 平一郎	分子シャペロンを用いた癌ワクチン開発の基礎研究	3
		分子シャペロンの抗原提示における役割の解析	
法医学	中園 一郎 津田 亮一	DNA多型	3
	中園 一郎 折原 義行	心臓突然死の法医病理学的検討	1
腫瘍医学	河野友子	細胞遺伝学的手法による新規細胞内シグナル伝達因子の同定	1
原研放射	岡市協生	放射線に対する細胞応答と放射線生物学の意義	2
	井原 誠		
	竹下 哲史		
原研病理	関根 一郎	急性放射線障害の病理学的検討	1
	伊東 正博	チェルノブイリ原発事故後の小児甲状腺癌の解析	1
	中山 敏幸	消化管腫瘍における Ets-1 前癌遺伝子の検討	1
原研遺伝	富田 博秋	遺伝子病家系の遺伝的連鎖解析	1
	木住野 達也	ゲノムインプリンティング領域のゲノム解析	1
	新川 詔夫	遺伝子病の変異解析	1
	吉浦 孝一郎	モデルマウス作成のための変異遺伝子の構築	1
原研生化	近藤 宇史	がん細胞の薬剤/放射線耐性獲得機構	2
	井原 義人	分子シャペロンとストレス応答	1
原研細胞	難波 裕幸	放射線と甲状腺研究	1
	大津 留晶	がん遺伝子治療の基礎研究	1
原研疫学	柴田 義貞 本田 純久	原爆被爆者健康診断に対する被爆者の意識分析	1
熱帯医学研究所			
分子構造	森田 公一	遺伝子工学の手法を用いたフラビウウイルスの作製	2
	長谷部 太	ウイルス非構造蛋白質の生物活性	2

教室名	指導教官	研 究 テ ー マ	受 講 学 生 数
病 原 因 子	平 山 壽 哉 和 田 昭 裕	細菌感染に伴う宿主細胞からの β -defensin-2 の発現誘導	2
感 染 細 胞	神 原 廣 二 柳 哲 雄	長崎におけるクリプトスポリジウムの分布	2
	上 村 春 樹	トリパノソーマに特徴的な酵素を大腸菌に発現させる	1
寄 生 制 御	青 木 克 己	住血吸虫ミラシジウムの遊泳運動と走化性	1
	藤 卷 康 教	開発途上国で使用されている薬用植物の抗糸状虫効果	2
炎 症 細 胞	中 村 三 千 男 熊 取 厚 志 鈴 木 章 一	宿主防御に関する遺伝子の転写機構の解析	2
病 変 発 現	鳥 山 寛	肝疾患の臨床病理学的研究	4
	板 倉 英 世	各型カボシ肉腫の病理・病態学に関する最新総説の作成	3
社 会 環 境	溝 田 勉	熱帯医学と国際保健の相互連携	3
疾 病 生 態	小 坂 光 男 李 丁 範	温度適応機序（発汗のメカニズム）	2
生 物 環 境	高 木 正 洋 津 田 良 夫	疾病媒介蚊生息環境の景観生態学的分析	2
資 料 情 報	嶋 田 雅 暁	アフリカにおける土壌媒介寄生虫蠕虫	1
	鈴 木 博	医動物に関する野外調査の実際	2

海外実習生

大 学 名	実 習 学 生 数
1 ライデン大学	2
2 ビュルツブルク大学	2
3 ミンスク医科大学	3

表4 A. 平成11年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	日本赤十字社長崎原爆病院	平成8年5月31日
2	長崎県立大村病院	平成8年6月1日
3	長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
4	長崎市立市民病院	平成8年6月1日
5	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
6	長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
7	長崎北病院	平成10年5月20日
8	江上耳鼻咽喉科	平成11年5月31日

B. 平成11年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授、臨床講師一覧

称号	氏名	施設名
臨床教授	楠本征夫	長崎市立市民病院
臨床教授	天野実	長崎市立市民病院
臨床教授	鈴木伸	長崎市立市民病院
臨床教授	田浦幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床講師	山田卓史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	辻畑光宏	医療法人春回会長崎北病院
臨床助教授	佐藤聡	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	古河隆二	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	本山和徳	長崎市障害福祉センター
臨床教授	富田弘志	長崎県総合保健センター
臨床教授	江上徹也	江上耳鼻咽喉科